

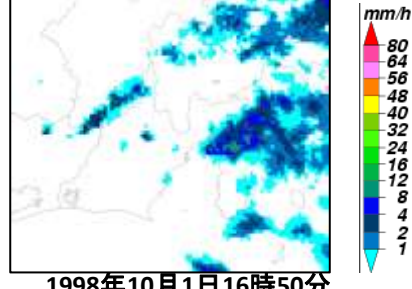
1. 気象経過

30日21時には、台風第9号から変わった温帯低気圧が対馬近海にあり、そこから閉塞前線が山陰沖にのび、閉塞点から東海沖に温暖前線、豊後水道から南西諸島に寒冷前線がのびていた。しかし、上空の寒気は明瞭ではなく、前線上の雨雲も不明瞭であった。一方、30日21時の850hPa(高度1500m付近)実況天気図によれば、静岡県から関東方面では、低気圧に向かって南西風が吹き続けており、海上には台風時に形成された雨雲が北上していたため、1日になっても弱い雨が続けていた。その後、山陰沖にある閉塞点に新たな低気圧が発生し、そこからのびる寒冷前線が、1日15時には東海地方まで東進した。寒冷前線付近の上空1500m付近には、相当温位※で340Kを越える暖湿気塊が、風速10～12m/sの南西の風により流入していたため、東部を中心に激しい雨となった。

※相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となってくる。単位は絶対温度(K:ケルビン)



1998年10月1日15時 地上天気図



1998年10月1日16時50分 気象レーダー

2. 大雨の原因、特徴

夜の冷え込みで内陸に発生した高気圧からの北寄りの風と南西風がぶつかる山沿いで局地的な前線が発生していた。一方、寒冷前線前面には、上空1500m付近の強い暖湿気塊が流入したため、北東-南西の線状降水域が東進しており、局地的な前線上で雨雲が発達し、激しい雨となった。



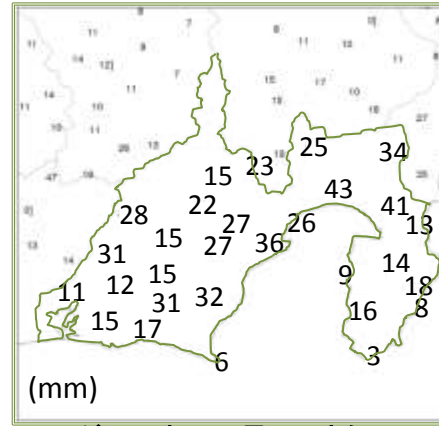
1998年10月1日7時アメダス風向風速、気温分布図

3. 被害概要

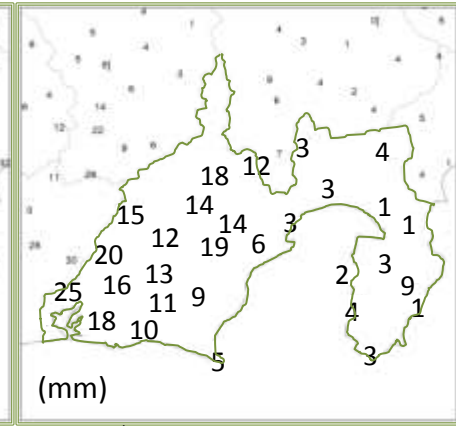
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 破損 (棟)	死者 数 (人)	重傷 者 (人)	軽傷 者 (人)	避難 者 (人)	停電 戸数 (戸)	河川 決壊 (箇所)	道路 決壊 (箇所)	鉄道 不通 (箇所)
全県	5	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東部	5	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

被害数は、静岡県 平成10年における災害の状況による

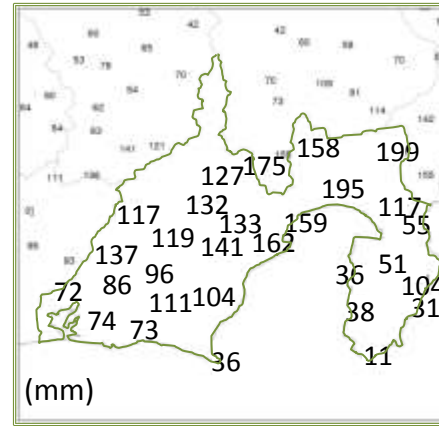
4. アメダス雨量分布図



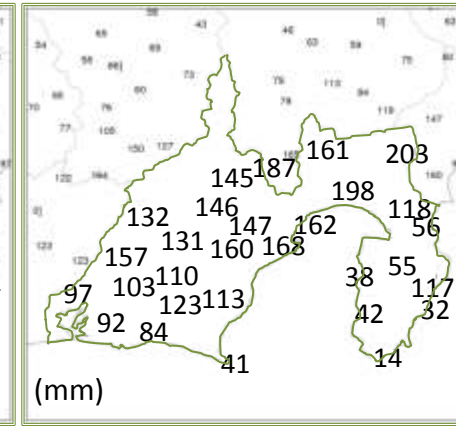
アメダス1時間雨量(正時毎)
9月30日～10月1日における最大値



アメダス日雨量
9月30日

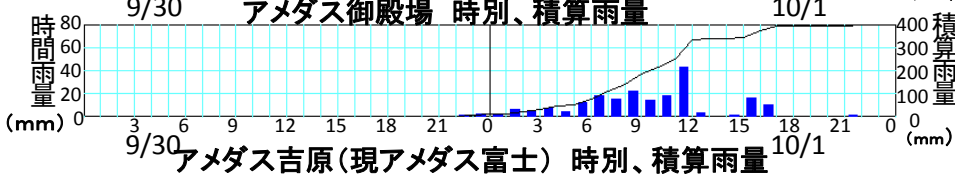
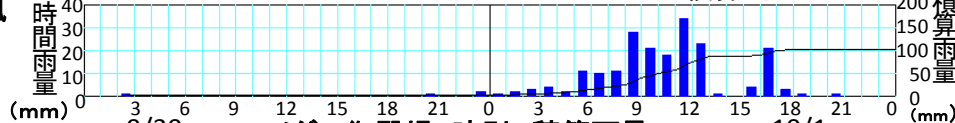
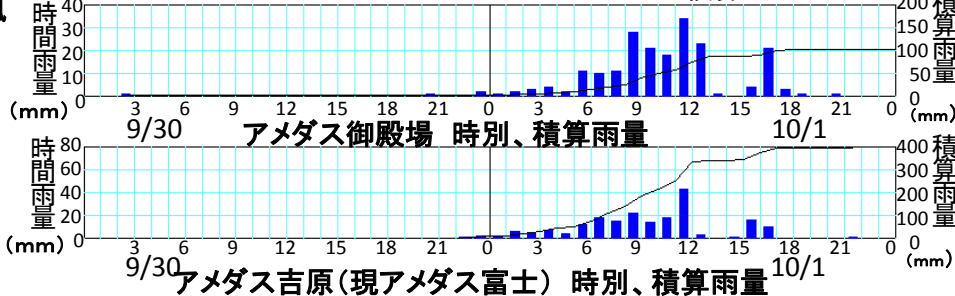


アメダス日雨量
10月1日



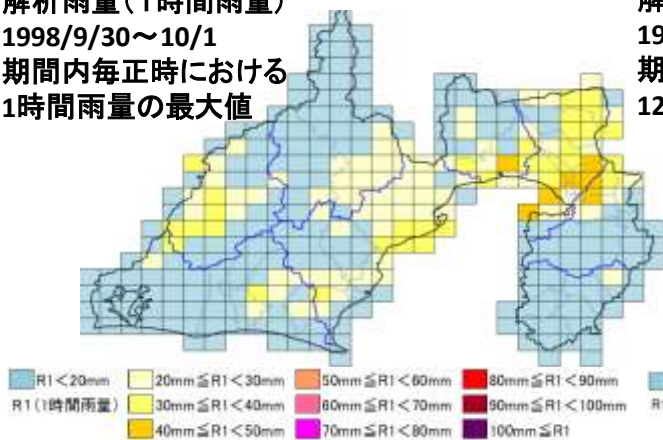
アメダス3日間雨量
9月29日～10月1日

5. アメダス時系列変化図

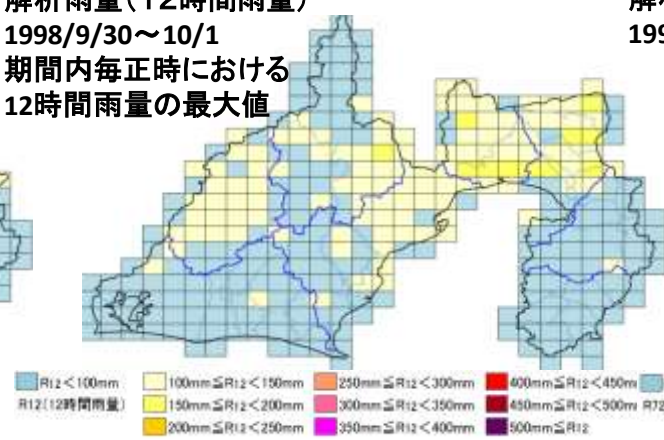


6. 解析雨量分布図

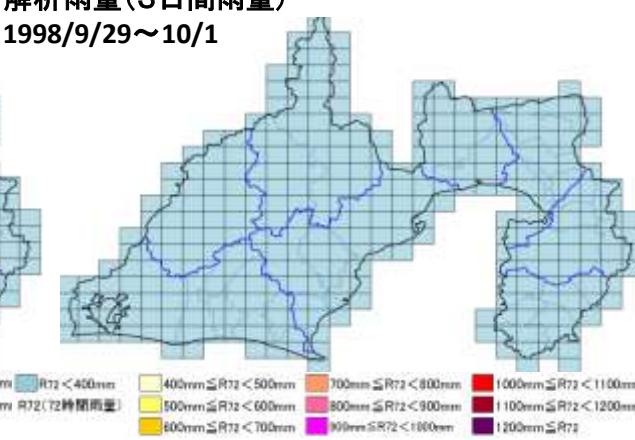
解析雨量(1時間雨量)
1998/9/30~10/1
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



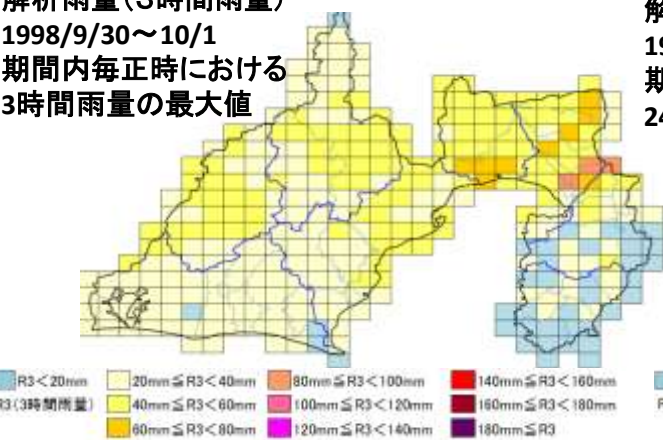
解析雨量(12時間雨量)
1998/9/30~10/1
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
1998/9/29~10/1



解析雨量(3時間雨量)
1998/9/30~10/1
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



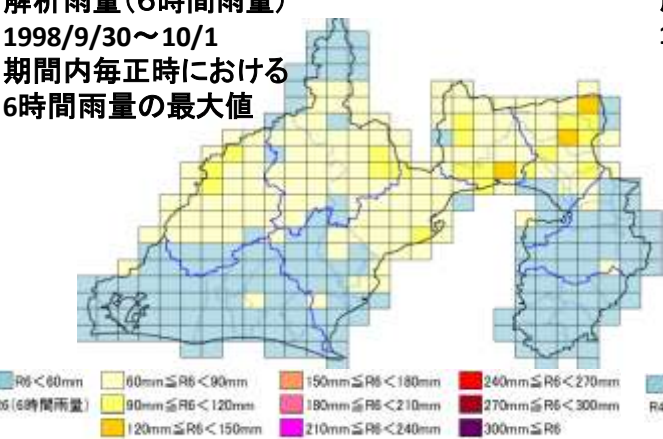
解析雨量(24時間雨量)
1998/9/30~10/1
期間内毎正時における
24時間雨量の最大値



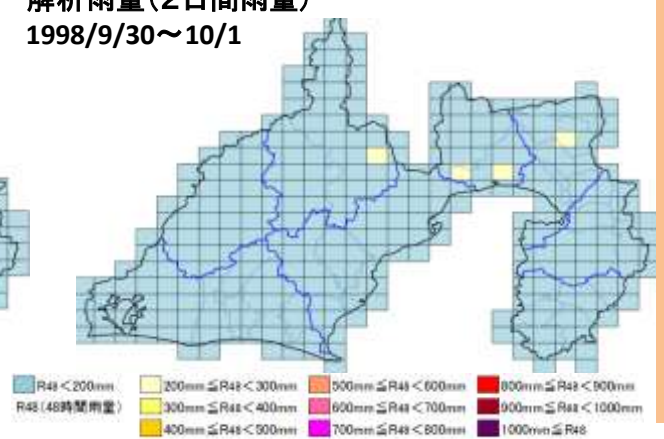
7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



解析雨量(6時間雨量)
1998/9/30~10/1
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
1998/9/30~10/1



解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

東部で短時間強雨が顕著であり、特に3時間雨量が多かった地域を中心に浸水害が発生している。局地的な前線に沿った強雨分布は不明瞭であるが、暖湿流が一時的であったこと、日中であったことから、北側の冷気が弱まり、局地的前線構造が不明瞭になっていったことなどが理由として考えられる。